

科目名	看護の統合と実践 I						
科目名(英)	Nursing integration and practice I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	森山 由香 渡邊 恵美子 樋口 圭子 倉智恵美子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	病院や看護部門の理念に則り、患者満足度を高める環境づくりの考え方や、患者サービスにおける看護管理について理解を深める内容を教授する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. チーム医療における看護管理について説明できる。	
	○	○				2. 看護管理システムの基礎について説明できる。	
	○	○				3. リーダーシップの概要について説明できる。	
	○	○				4. 看護業務と看護労働について説明できる。	
	○	○				5. 対象の安全を守る環境管理について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護の管理とは				配布資料の事前通読	
	2	看護職者間、看護職者と保健医療福祉従事者とのコミュニケーション				配布資料の事前通読	
	3	看護とリーダーシップ				配布資料の事前通読	
	4	看護職者のモラル				配布資料の事前通読	
	5	看護組織とその特性				配布資料の事前通読	
	6	看護方式(看護体制)				配布資料の事前通読	
	7	病院看護管理者の職務				配布資料の事前通読	
	8	看護の業務				配布資料の事前通読	
	9	看護業務と医師の指示				配布資料の事前通読	
	10	看護労働と労働条件				配布資料の事前通読	
	11	医療事故と法的責任				配布資料の事前通読	
	12	感染防止対策				配布資料の事前通読	
	13	インフォームドコンセント				配布資料の事前通読	
	14	看護におけるコンサルテーション				配布資料の事前通読	
	15	看護管理の原則と基礎				配布資料の事前通読	
評価方法	・4名の講師による講義内容を 筆記試験 各25% 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(森山)	◎	◎				25%
	筆記試験(渡邊)	◎	◎				25%
	筆記試験(樋口)	◎	◎				25%
	筆記試験(倉智)	◎	◎				25%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の統合と実践Ⅱ								
科目名(英)	Nursing integration and practice Ⅱ								
単位数	1単位	時間数	15	担当者	長田 孝幸 竹中 栞澤 長田 順子				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	看護科 3年生								
授業概要	災害看護を通して他職種との協働や連携、また災害救助活動を通して国際協力についても考えさせる機会とする。加えて人々の生命を守り、生活を支援するという看護の原点に立ち戻らせることをねらいとする内容を教授する。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				1.災害医療・災害看護の概念を説明する。			
	○	○				2.災害各期の看護活動を説明できる。			
	○	○				3.災害時の実際を説明できる。			
	○	○				4.看護の国際協力について説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1					配布資料の事前通読			
	2	大災害訓練参加							
	3								
	4	災害医療				配布資料の事前通読			
	5	災害看護の定義と役割				配布資料の事前通読			
	6	災害サイクルに応じた看護活動				配布資料の事前通読			
	7	災害の種類別の被害の特徴				配布資料の事前通読			
	8	被災者および援助者の心理				配布資料の事前通読			
	9	災害看護				配布資料の事前通読			
	10	国際交流と国際協力のしくみ				事前課題実施			
	11	世界の健康問題の現状				事前課題実施			
	12	発展途上国に対する協力				事前課題実施			
	13	国際機関への協力				配布資料の事前通読			
	14	国際看護活動の実際				配布資料の事前通読			
15	看護の国際的活動の展開				配布資料の事前通読				
評価方法	・4名の講師による講義内容を1回の筆記試験 各25% 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	筆記試験(長田孝 竹中)	◎	◎				50%		
	筆記試験(栞澤 長田)	◎	◎				50%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。								

科目名	公衆衛生Ⅱ						
科目名(英)	Public health Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	15	担当者	竹原直道		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学	看護科 3年生						
授業概要	疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために公衆衛生の動向を理解し、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場、地域での総合的な健康支援について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 地球規模の環境と健康について説明できる。	
	○	○				2. 職場における健康について説明できる。	
	○	○				3. 産業保健、看護活動の展開について説明できる。	
	○	○				4. 産業保健における今後の課題と働き方について説明できる。	
	○	○				5. 健康危機管理と災害看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図	系統看護学講座 公衆衛生 国民衛生の動向(厚生統計協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	環境と健康:地球規模の環境と健康、身の回りの環境と健康、				配布資料の事前通読	
	2	職場と健康:職場における健康とは、					
	3	産業保健・看護活動の展開、産業保健における今後の課題と新たな動き					
	4	健康危機管理・災害看護:健康危機管理、災害保健					
	5						
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(竹原)	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	社会福祉と社会保障Ⅱ						
科目名(英)	Social welfare and social security Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	社会福祉士		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学	看護科 2年生						
授業概要	社会保障の理念と基本的な制度についての考え方の理解や、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			社会福祉の目指すノーマライゼーションの考え方について説明できる。		
	○	○			社会福祉の法律と制度・対象・分野・援助方法について説明できる。		
	○	○			社会福祉・社会保障制度の概要と看護との関連性について説明できる。		
テキスト・教材 参考図	ナーシンググラフィカ 社会福祉と社会保障						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障制度の概要			配布資料の事前通読		
	2	社会福祉制度とその主な内容					
	3	社会保険制度:医療保険制度					
	4	社会保険制度:年金保険制度					
	5	社会保険制度:労働者災害補償保険制度					
	6	社会保険制度:雇用保険制度					
	7	社会保険制度:社会福祉分野のサービスと行政					
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	情報科学Ⅲ						
科目名(英)	Information ScienceⅢ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	高橋 圭一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であり、看護師の情報活用能力を高めることを目的とする。看護研究におけるデータ分析の実際としての統計処理を理解する必要があるため設定した。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			看護における情報処理システムについて説明できる。	
	○	○	○			統計処理・方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	看護と情報科学の将来			配布資料の事前通読		
	2	統計処理の概要			配布資料の事前通読		
	3	統計処理の実際 その1			配布資料の事前通読		
	4	統計処理の実際 その2			配布資料の事前通読		
	5	統計処理の実際 その3			配布資料の事前通読		
	6	記述統計(ヒストグラム作成方法、正規分布とは)			配布資料の事前通読		
	7	看護研究に必要な検定の実際			配布資料の事前通読		
	8	t検定、χ ² 検定			配布資料の事前通読		
	9	ノンパラメトリック検定			配布資料の事前通読		
	10	インターネットによる情報収集・文献検索方法およびその妥当性			配布資料の事前通読		
	11	ワープロソフトを用いた統計記述			配布資料の事前通読		
	12	保健統計学の基礎 その1			配布資料の事前通読		
	13	保健統計学の基礎 その2			配布資料の事前通読		
	14	看護における情報処理システム その1			配布資料の事前通読		
	15	看護における情報処理システム その2			配布資料の事前通読		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。PC操作技術も含む。 ・60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	実技演習			◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習Ⅲ						
科目名(英)	Adult nursing practiccⅢ						
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・西島明日香 山本勇也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、生体機能の順調な回復を促し、身体の回復状態に合わせてセルフケア再獲得のための援助を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 急性期を脱した身体状態をふまえ、回復に向けた援助が理解できる。	
	○	○	△			2. セルフケアが障害されている部分に対する援助が実施できる。	
	○	○	○			3. 残存機能を考慮し、身体の回復状況に合わせたセルフケア再獲得への援助が実施できる。	
	○	○				4. 回復への期待と不安を持つ対象および家族への心理的支援が実施できる。	
	○	○				5. 生活の再編成にむけて、対象に必要な社会資源を考えることができる。	
	○	○				1. 救急医療のシステムを説明できる。	
	○	○				2. 救急患者の身体的、心理的、社会的な問題を説明できる。	
	○	○				3. 救急看護の役割機能を説明できる。	
	○	○				4. 救急看護における基本的な看護の実際を見学する。	
	○	○				1. ICU・HCUにおける患者の生活環境について説明できる。	
	○	○				2. 生命危機状態にある患者への看護援助について説明できる。	
	○	○				3. 生命危機状態にある患者と治療・看護処置との関係が説明できる。	
	○	○				4. 生命危機状態にある患者を取り巻く専門職間の協力・連携を説明できる。	
			○	○		7. 看護師倫理に則して実習を行うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
		身体情報のモニタリング				成人看護学に必要な資料の振り返り	
		障害の拡大予防と機能回復の促進					
	セルフケア行動の判断と再獲得に向けた援助						
	3 週間	障害受容の諸段階における心理的適応の援助					
		セルフケア再獲得の段階における治療や検査時の看護					
		セルフケア再獲得の段階にある対象を取り巻く医療チーム					
	救急 外来 ICU / HCU	保健医療福祉のなかで看護の果たす役割					
		看護過程の展開					
		救急患者の搬送・初療					
		救急患者のアセスメント、救急看護の役割機能					
		救急患者・家族への援助					
		ICU・HCUにおける物理的・人的・細菌学的環境					
		生命危機状態にある患者への看護					
生命危機状態にある患者のアセスメント							
他職種との協力・連携							
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Mental nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	古賀 明弘 上田 朋紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年						
授業概要	精神看護援助を行う上で修得すべき知識として、精神科看護の対象・目的および看護師の役割、精神科看護の特性と基本的援助方法の理解、患者-看護師関係の発展過程の理解、主な精神症状と問題行動への看護、各種療法における看護の役割・援助、社会復帰に向けての援助を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 精神科看護の対象・目的・方法と看護の役割について説明できる。	
	○	○				2. 患者-看護師関係の発展過程について説明できる。	
	○	○				3. 各精神症状・問題行動および治療に対する看護援助を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 ・東京アカデミー オープンセサミシリーズ 看護学3						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神臨床看護の考え方-精神科看護師の役割(上田)				テキスト通読 講師配布資料通読	
	2	精神看護援助の基本と技術-患者-看護師関係(上田)					
	3	精神看護援助の基本と技術-セルフケア理論(上田)					
	4	精神看護援助の基本と技術-セルフケアの援助(日常生活援助、食事・水分摂取・服薬・呼吸)(上田)					
	5	精神看護援助の基本と技術-セルフケアの援助(排泄、清潔、活動・休息、対人関係、安全)(上田)					
	6	精神看護の看護過程(上田)					
	7	生きる力と強さ-ストレス、リカバリ、エンパワメント(上田)					
	8	入院から社会生活の継続までの看護-精神疾患患者の理解(古賀)					
	9	入院から社会生活の継続までの看護-安全管理(古賀)					
	10	入院から社会生活の継続までの看護-急性期・回復期・慢性期の看護(古賀)					
	11	入院から社会生活の継続までの看護-退院後の生活支援(古賀)					
	12	精神症状および問題行動に対する看護-幻覚妄想、不安、不眠(古賀)					
	13	精神症状および問題行動に対する看護-抑うつ、自殺・自傷、躁状態(古賀)					
	14	精神症状および問題行動に対する看護-強迫行為、依存状態(古賀)					
	15	精神症状および問題行動に対する看護-摂食行動障害、操作する患者(古賀)					
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(古賀)	◎	◎				50%
	筆記試験(上田)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学方法Ⅲ						
科目名(英)	Mental nursing method Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	上田 朋紀		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年						
授業概要	ペーパーバイシエントによる看護過程の展開を学ぶ。統合失調症の急性期・慢性期における看護上の問題の検討の中心として、急性期から慢性期の変化とともに起こり得る問題とその要因に対する理解が深まるよう構築する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				病態と人生背景や成長発達に関連について、情報から分析判断したことを説明できる。	
	○	○				急性期の病態の特徴を踏まえ、心理面・身体面・生活面への影響について分析判断したことを説明できる。	
	○	○				急性期の病態の特徴を踏まえ、必要な看護の方法について説明できる。	
	○	○				慢性期の病態の特徴を踏まえ、心理面・身体面・生活面への影響について分析判断したことを説明できる。	
○	○				慢性期の病態の特徴を踏まえ、社会復帰やその人らしい生活を送るための健康面を生かした看護の方法について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版 ・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 ・東京アカデミー オープンセサミシリーズ 看護学3 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神看護学における看護過程の特徴				精神看護学の授業内容と精神看護学実習の振り返りと資料準備	
	2	急性期:看護過程事例紹介・情報収集					
	3	精神疾患患者の看護過程におけるアセスメントの視点共有					
	4	各グループに分かれ看護過程の展開 ～情報の分析・解釈/看護問題の明確化/看護診断の確認/計画立案～					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9	中間発表(グループの展開内容を他グループに発信、意見交換)					
	10						
	11	中間発表を受けての追加・修正					
	12	慢性期:看護過程事例紹介・情報収集					
	13	各グループに分かれ看護過程の展開 ～情報の分析・解釈/看護問題の明確化/看護診断の確認/計画立案～					
	14						
15							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、個人で作成した看護過程レポート(80%)、授業に臨む姿勢などの態度面(20%)にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎			◎		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	統合実習						
科目名(英)	Integrated Practice						
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・柁澤 芳江		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	3年間の集大成として到達させるべく目標に添うために、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野(在宅看護論)実習で学んだ後にカリキュラムの最後に位置づけた。ここでは再度、既習の知識・技術・態度を統合させて学ばせられるよう、臨地実習を含む3年間のカリキュラムを通し、実務に即した臨床実践能力を身に着ける						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. チームリーダー・メンバーの役割を説明することができる	
	○	○	△			2. 看護管理の実際を知ることにより、チーム医療における看護の役割と機能を説明することができる	
	○	○	○			3. 複数患者の看護を通して、看護の優先順位・時間管理について説明し、実施できる。	
	○	○				4. 夜間帯での患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解したことを説明することが出来る。	
			○	○		5. 看護師倫理に則して実習を行うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	看護の統合と実践Ⅰ～Ⅳの講義資料 その他、3年間の学習資料 実習要綱						
授業計画	3 週 間	授業項目・内容				授業外学修指示	
		コーディネーターの役割と業務の実際				統合実習に必要な資料の振り返り	
		病院組織における看護管理					
		病棟管理者の役割と業務					
		複数受け持ち患者への看護の実際					
		看護計画の修正・評価					
		複数患者間における援助実施・優先順位の判断					
		適切な時間管理(実施時間・時間配分)					
		作業中断時におけるスタッフへの依頼					
		夜間体制の業務内容の見学					
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						